

事例の紹介について

事例の紹介について

事例1 和食レストラン わっ嘉 (わっか)(飲食店)

- 障害者、高齢者誰でもコミュニケーションがとれる場所を目指した、和食レストラン
- 可動椅子席と固定椅子席を組み合わせた客席空間
- もともとあった便房に加え、改修により車椅子利用者用便房を設置
- 店主自身も車椅子利用者

事例2 麺屋 義(めんや よし) (飲食店)

- 店長を含むスタッフ4人が聴覚障害者（その他に耳の聞こえるスタッフ1名）のラーメン店
- 客席と厨房の視覚的なコミュニケーションに配慮したコの字のカウンターのレイアウト
- コミュニケーションをサポートするための設備・備品の工夫

事例1: わっ嘉 (飲食店)



特徴

- 障害者、高齢者誰でもコミュニケーションがとれる場所を目指した、和食レストラン
- 可動椅子席と固定椅子席を組み合わせた客席空間
- もともとあった便房に加え、改修により車椅子使用者用便房を設置
- 店主自身も車椅子使用者

概要

所在地	千葉県柏市西原2-1-3
店舗形態	賃貸 (2階建ての1階に位置する路面店舗)
開業	2018年11月
客席数	テーブル席 18席、カウンター席 3席
付帯施設	駐車場5台



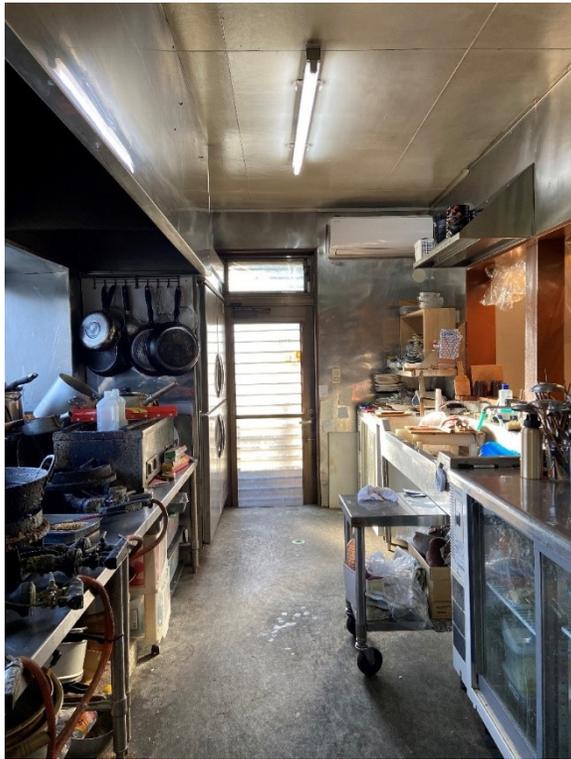
- 店舗の出入口は引き戸(有効幅: 77cm)となっている。
- 戸の前後にあった段は、改修により解消されている。

客席



- 客席空間の床の段差はない。
- 店内には、ゆとりのある広さが確保されている。
- テーブル席の他にカウンター席がある。
- テーブル席は片側が固定椅子、片側が可動椅子となっていて、テーブルも動かすことができるようになっている。
- テーブルは下端高さ：70cm、上端高さ：76cmで、車椅子使用者のひざが入る高さとなっている。

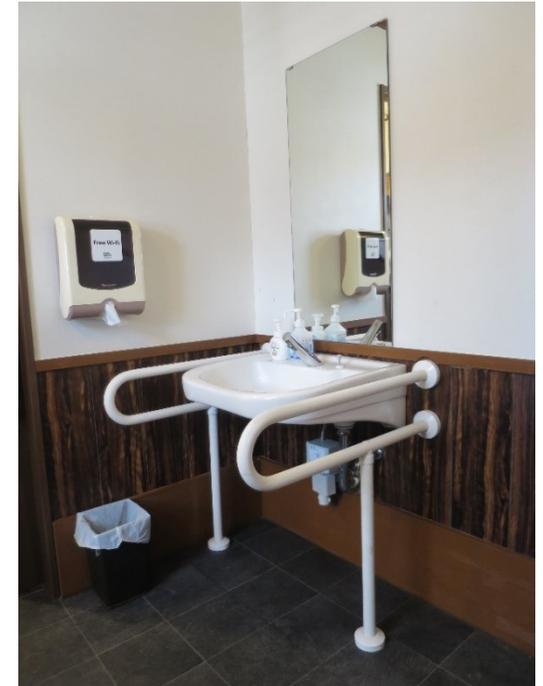
厨房



- 厨房内の通路幅は、約100cmとなっている。
- シンク、コンロ用の台は、既製品の中で最も高さが低いものを使用している。
- 膝の入るスペースを確保するため、シンクやコンロの下には引き出し等をつけていない。

- 厨房の出入口に小さな段差があったが、車椅子で通過する際の振動で、お味噌汁等がこぼれてしまうので、既製品の擦り付け板により段差を解消した。

車椅子使用者用便房



- 客席2テーブル分のスペースを改修し、車椅子使用者用便房が設置されている。
- 出入口は引き戸形式(有効幅:100cm)、取っ手の形状は握りやすい棒状となっている。
- 便房の内法寸法は、2.2m×2.2mとなっている。
- 便房内には、オストメイト対応のシャワー設備、着替え台、洗面器が設置されている。
- 便器の両側と前方には、跳ね上げ式の手すりが設けられている。
- 洗面台の両側には、手すりが設けられている。

事例2: 麺屋 義(飲食店)



概要

所在地	東京都台東区谷中3-24-1 野口ビル1F
店舗形態	賃貸 (6階建ての1階に位置する路面店舗)
開業	2016年8月
客席数	カウンター10席
付帯施設	なし

特徴

- 店長を含むスタッフ4人が聴覚障害者（その他に耳の聞こえるスタッフ1名）のラーメン店
- 客席と厨房の視覚的なコミュニケーションに配慮したコの字型のカウンターのレイアウト
- コミュニケーションをサポートするための設備・備品の工夫



- 店舗の出入口は引き違い戸(有効幅:78cm)となっている。

コミュニケーションの工夫



- 厨房からお客様の様子を見やすいよう（またお客様からスタッフが見やすいよう）カウンターはコの字となっている。
- お店を出て行くお客様に気づかないときに、ご挨拶できないのは申し訳ないと考えた店主により、出入口上部に「ありがとうございました。」等の音声の出るセンサー機器が設置されている。



- カウンターに置かれた調味料には、見てわかるように名称が書かれている。
- カウンターは上端高さ：90cmで、車椅子使用者には高い。カウンター下部への引き出し式の台の設置やテーブル席の設置を考えている。（車椅子使用者のお客様が来ることがある。）

コミュニケーションの工夫



- 注文の際に筆談をしなくても麺の硬さやトッピングを指定できるよう、券売機には食券と一緒に出す木札（「麺かため」等）が備えられている。
- 硬貨投入口の高さ：床から約94cmで、車椅子使用者が券売機を使う場合には、スタッフがサポートしている。

- お客様に手話を覚えてもらえるとうれしいという気持ちで、イベントへの出店をきっかけに手話の挨拶の看板も作成した。
- 実際に手話であいさつして下さるお客様もいる。
- 介助犬を連れてお客様が来ることもあり、その際にはスタッフが客席まで案内する。